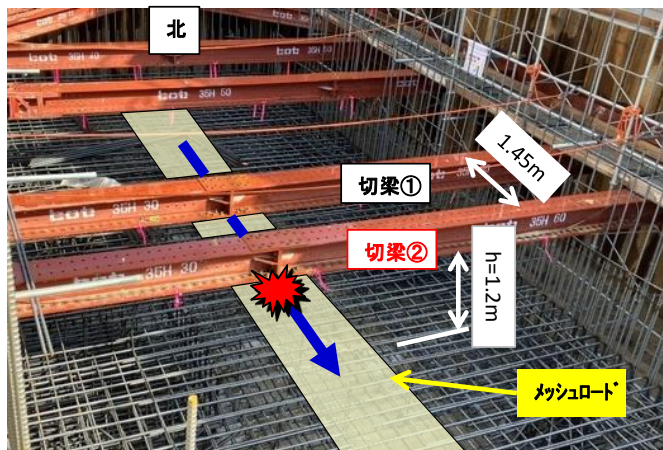


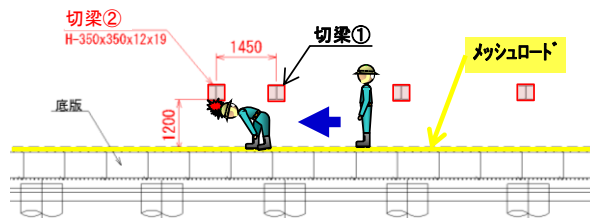
# 公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	令和6年11月28日(木曜日)9時50分			工事関係者区分	三次下請
事故区分	その他	性別	男性	年齢	57才	業種区分	土木
被災程度	中心性頸髄損傷			事故レベル	I	休業見込日数	3日
工事概要	配筋組立作業						
事故概要	被災者が鉄筋上を移動中、近接した2本の切梁下(鉄筋から梁下までの高さ1.2m)を屈んで通過していた。通過し終えたと思ひ頭を上げたところ、通過しきれていなかった2本目の切梁に頭をぶつけ、後方に転倒した。						
事故原因	底版鉄筋組立工が下部から上部に移行した直後であったことから、当日のKY活動において、作業場の移動にあたっては周辺の確認を十分に行う旨を周知していたが、被災者は通行時の目視確認を怠り、自らの感覚で切梁を通過したとの思い込みによって発生したもの。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KY活動時に作業場での移動は周辺の確認を十分に行ったうえで慎重に移動するよう注意喚起を行った。また、作業手順の周知徹底・事故概要の周知・再発防止策に関する安全教育を実施した。</li> <li>・切梁端部に注意喚起のために設置していた目印テープに加え、更にプラチェーンを設置することで頭上への注意を促すようにした。また、切梁直下に色付きの通路用マットを敷設し、足元でも切梁の位置を目視確認出来るよう改善した。さらに、危険個所の周辺には「頭上注意」等の表示を行った。</li> <li>・作業員が通過する個所上部に切梁等がある場合は、直接接触することを防ぐため端部を保護するための緩衝材を設置し養生を行った。</li> </ul>						

## 事故状況図



事故発生状況



事故状況断面

## 改善状況図



再発防止検討状況



切梁位置明示



頭上注意の表示及び緩衝材の設置